

# 令和 6 年度指定管理者評価書

(令和 7 年度実施分)

猪名川上流広域ごみ処理施設組合



## 評価の概要

### (1) 施設名称

国崎クリーンセンター啓発施設

### (2) 施設の設置目的

ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信、並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。

### (3) 指定管理者

株式会社トータルメディア開発研究所

### (4) 選定方法及び指定期間

選定方法： 公募

指定期間： 令和4年4月1日から令和11年3月31日まで

### (5) 評価対象期間

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

### (6) 指定管理委託料（令和6年度）

65,736千円

## 1 評価指標

### (1) 個別項目評価

- A： 協定書、事業計画書等の内容について、すべての業務計画を達成し、優れた管理・運営が行われている。
- B： ほぼ（8割超）業務計画の内容を達成し、計画とおりの実績（効果）があり、適切な管理・運営が行われている。
- C： 概ね（6割以上8割以下）業務計画の内容を達成しているが、一部改善・工夫が必要である。
- D： 協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

### (2) 総括評価 ※管理体制評価／経営状況評価／運営事業評価

- A： 個別項目評価が全てB以上であり、かつAが半数以上である。
- B： 個別項目評価の全てがB以上である。
- C： 個別項目評価にCが1つでも含まれる。
- D： 個別項目評価にDが1つでも含まれる。

### (3) 総合評価

- S : 総括評価の全てが A である。
- A : 総括評価が全て B 以上であり、かつ A が 2 つ。
- B : 総括評価が全て B 以上である。
- C : 総括評価に C が 1 つでも含まれる。
- D : 総括評価に D が 1 つでも含まれる。

## 2 所管課確認項目

### ● 管理体制に関する項目

(所管課チェック)

- ① 施設の点検・保守管理 
  - ・ 協定で定める管理物件について、適切に管理されている。
  - ・ 定期的に安全確認を行い、組合に報告されている。
- ② 個人情報保護 
  - ・ 収集した個人情報は適切に管理されている。
  - ・ 個人情報を目的外利用していない。
- ③ 文書管理 
  - ・ 文書・帳簿等が適正に作成・管理されている。
- ④ 備品管理 
  - ・ 備品台帳が整備されている。
- ⑤ 指定管理者が行う修繕 
  - ・ 協定に定める管理物件の修繕について、適切に実施されている。
  - ・ 修繕箇所について、随時、組合に報告されている。

### ● 上記 1～5 についての所管課所見

「いずれの評価項目においても適正に管理、執行されていることを確認し、良好であると評価する。」

項目	評価項目	指定管理者自己評価		
		評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価	
管理体制等に関する項目	1	<p>(適正な人員配置)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画に則した人員配置となっている</li> <li>● 指揮命令系統が確立されている。</li> <li>● 緊急時にも対応できる体制となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和6年度業務計画書に則って職員を適材適所で配置し、各種啓発業務を実施している。</li> <li>● 組織体制・指揮命令系統等を定め、運用している。毎月2回の定例会に本社の担当者が出席し、本社からの直接の指示伝達や業務支援などを実施している。</li> <li>● 緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時、緊急時の役割分担)、緊急連絡網を毎年更新している。また、常勤全職員が甲種防火管理者講習及び普通救命講習を修了している。</li> </ul>	A
	2	<p>(職員研修の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業計画に則した職員研修が実施されている。</li> <li>● 苦情や緊急時に適切に対応できるよう研修が実施されている。</li> <li>● 施設運営の質の向上に資する研修が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年間を通して延べ56人が環境カウンセラー研修や接遇研修など計42件の講習や講座を受講した。</li> <li>● 「クレーム対応・危機管理研修」「ハラスメント研修」などを実施している。</li> <li>● 12月に「大阪市立阿倍野防災センター あべのタスカル」「津波・高潮ステーション」にスタッフ全員で研修に行き、防災学習施設におけるガイドや運営について学んだ。両施設での研修を通じた気づきから、令和7年度の見学オプション新メニューとして「防災にも役立つ!新聞紙で作るスリッパ」作りワークショップを追加した。</li> </ul>	A
	3	<p>(日常業務及び緊急時等の対応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸館業務利用許可や受付案内等が迅速で丁寧に行われている。</li> <li>● 苦情が頻発していない。</li> <li>● 苦情や緊急事態が発生した際の対応が適切に行われている。</li> <li>● 新たな課題を抽出し、適切に対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸館利用許可などの事務は原則として即日で実行している。利用者への受付案内は、即時対応している。</li> <li>● 苦情の覚知は数か月に1回程度。頻発している状態ではない。</li> <li>● 令和7年3月のフリーマーケットの来場者から「(敷地内道路の)下り坂をスピードを出して走行するクルマがあり危険」との指摘があり、令和7年4月27日の催事では下り坂用の徐行サインを追加した。</li> <li>● 着物リメイク講座では、ミシンの使用に不慣れ参加者へのサポートが必要との課題が浮上し、初参加の人がいる場合にはサポートのスタッフの人数を増やして対応している。</li> </ul>	A
	4	<p>(利用者の安全確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全確保対策を徹底している。</li> <li>● 職員に指導徹底している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全管理マニュアルを作成し、徹底している。館内の巡回時には、危険箇所がないかをチェックしている。</li> <li>● 安全管理マニュアルの内容は職員全員に徹底している。組合の自衛消防訓練に毎年参加している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員はそれぞれの仕事について知識を有しているものが配置されており、大規模イベントについては全員で参加し、責任者を充てるようにしている。</li> <li>● 職員が有給休暇を取得できるよう、ワークライフバランスに配慮ができています。</li> <li>● 毎年防火管理者講習を職員が受講し、防災の観点から日々の安全管理に努めている。</li> </ul>	A	<p>令和7年6月17日に指定管理者評価協議会を開催し、指定管理者及び組合のそれぞれから評価の説明を受けヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。</p> <p style="text-align: center;"><b>管理体制に関する項目</b></p> <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修内容を職員間で共有する報告会の実施が行われているか確認した。</li> <li>● 避難等が必要な事案発生時でも、職員全体で安全管理マニュアルに基づいて行動するよう徹底されているかを確認した。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 職員自身のスキルアップを図る研修はもとより、施設運営のための外部機関主催の研修にも積極的に参加されている。</li> <li>● 参加した研修や受講した講習は資料を回覧して職員間で情報共有を行っているが、研修内容に関する報告会は実施しておらず、月に数回朝礼時に発表を行うにとどまっている。</li> </ul>	B	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修内容を職員間で共有する報告会の実施が行われておらず、月に数回朝礼時に発表を行うにとどまっており、十分な対応とはいえない。</li> <li>● 職員全体が安全管理マニュアルの手順に準拠して、対応できており、安全確保の上利用者を適確に避難誘導できている。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 苦情については、頻繁に発生していない。施設の入り口が分かりにくい、ドッグランに糞が残っている、天体観測会で開始時間が遅れたなどの軽微なものはあったが、いずれも必要な対策を取った。</li> <li>● 組合に対して施設運営に関する苦情は届いていない。些細な事でも発生した場合は、引き続き組合と共有を願いたい。</li> <li>● 施設見学で体調の具合が悪くなった方への対応も職員が協力し、適切に対処を行った。</li> <li>● 社会見学・講座中に火災警報が発報した際も、利用者を的確に誘導し、安全確保を徹底した。</li> </ul>	A		A
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全管理マニュアルは毎年適切に更新できしており、事案発生時に見直しも行っている。また避難等の準備も職員間で徹底し、利用者の安全確保ができています。</li> <li>● 館内利用者に対し、安全に見学ができるよう案内看板を表示し、声かけを行うなど対応している。</li> <li>● クーリングシェルターとして、館内適正温度の管理や経口補水液の準備等、受け入れの体制が整えられている。</li> <li>● 狩猟シーズンには狩猟者に対し法令及びマナーを遵守すること、里山林への入山者には目立つ服装で入山することなど、館内の掲示物で注意喚起している。</li> <li>● 里山林内での利用者の安全確保のため、林内10ヶ所にスズメバチトラップを設置し、冬眠明けの女王バチ駆除に努めている。</li> </ul>	A		

項目	評価項目	指定管理評価とした評価事項等	評価
経営状況に関する事項	5 (経理事務の実施状況) ● 収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	● 月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。  ● 本社の経理担当者が随時、帳票量をチェックしている。また、本社の経理担当者が来館して定期的にチェックを行っている。	A
	6 (収支の状況) ● 収支計画書と収支決算書に大きな乖離がない。	● 収支計画書と収支決算書との間に大きな乖離はない。  ● 収支については、物件費、事務費、管理費の抑制に努め、啓発施設の活動を支える事業関連費及び人件費を十分に確保した。特に 15 周年記念事業や木工指導のできる契約社員の増員など、啓発活動の充実に向けた積極的な支出を行った。	A
	7 (販売売上の状況) A : 350万円以上 B : 250万円以上350万円未満 C : 150万円以上250万円未満 D : 150万円未満	● 事業収入合計は予算比 92%の 2,786,565 円であった。講座・講演会参加費等は予算の 98%、雑収入は同 79%であった。昨年度実績 2,133,573 円と比較すると、130%の増収という結果であった。増収傾向ではあるが、引き続き収益確保に努める。	B

<p style="text-align: center;">評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等</p>	<p style="text-align: center;">評価</p>
<p>経理事務の実施状況</p> <p>(1) ワークショップから発生する収益金 イベント・ワークショップは収益金の発生時に出納帳へ記載し、定番ワークショップについては予約票に基づき、ナンバリングされたチケットを購入頂き金庫に一時保管する。毎月末日に施設専用口座へ入金する。</p> <p>(2) 会議室等貸し業務から発生する収受金 業務の一環として行う貸室等の収受金は指定管理者の収益にはならない。当該金銭の取り扱いについて、許可番号管理表ごとに金銭を収受し、一旦金庫に保管をした後毎月末に使用料報告書とともに施設組合へ納金している。</p> <p>(3) 費用発生に伴う処理方法（会計処理）</p> <p>① 小口現金での精算</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に移動交通費、少額な材料代及び備品等の購入その他必要時に応じて精算している。</li> <li>・手順は予算執行申請書を作成して上長の承認を得ている。執行後、毎月15日と月末に帳票及び出納帳を大阪事務所へ提出し、その後東京本社にて内容チェックを受ける。</li> </ul> <p>② 請求書に基づいた支払</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務所内で必要となる備品類の購入、イベント・ワークショップ時に必要な材料代及び月次定例になっている運賃、光熱費等の支払。</li> <li>・手順は発注事案の発生に伴い、必要に応じて見積書を取り、上長の承認を得る。業者より送付された請求書に基づいて専用システムで経費伝票の起票をし、大阪事務所及び東京本社での承認をとり、東京本社の経理担当により業者への支払をする。</li> </ul> <p>③ 注文書を取り交わしての支払</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント・ワークショップ、推進協力業者等への外注費の支払は注文書を取り交わして支払を行う。</li> <li>・手順は業者より見積書を取り、計画書と共に上長の承認を取る。見積書をもとに注文書を発行して再度上長の承認を取って東京本社にて注文書に社印の押印をする。協力業者より請書を取り、検収後上長承認を取り、東京本社経理担当にて業者への支払をする。</li> <li>・当年度より注文書の発行につき、従来からの紙ベースでの締結に加えて、電子締結（DocuSign）を開始した。手順的には紙が電子になったことで、特別な対応は無い。</li> </ul> <p>(4) 帳簿及び帳票類の閲覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれについて、上長等の承認が取れているかを確認した。その上で現金出納帳と領収書の突合、請求書に基づいた支払と請求書との突合、協力業者等への注文書と請求書及び支払明細書の突合、さらに個人委託先に係るものについては源泉所得税を控除しているかを確認した。</li> <li>・いずれの項目についても不備は確認できなかった。</li> <li>・現金出納帳、見積書、請書、納品伝票、精算伝票及び予算執行申請書並びに使用料収入明細書、施設使用許可書等の各種書類は適正に保管・管理されていた。</li> </ul>	A
<p>経営状況（収支の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総額については、概ね計画通りである。</li> <li>・個別では、人件費のうち後方支援スタッフ費用及び直接事業費が予算計画を上回った。前者は会計制度の変更（インボイス、電子帳簿保存法）等に伴う作業の増加による後方支援スタッフ費用の増加、後者は芸能人を招いたイベント事業を実施した為に増加したものである。ただし、事業の一環として適正に行われたものと認められるものである。</li> </ul>	
<p>販売売上げの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売売上げ（事業収入）については講座・講演会参加費及び雑収入である。</li> <li>・ほぼ計画通りであった。</li> </ul> <p>【総評】</p> <p>概ね予算通りに実行されている。また、予算の執行についても指定管理者の定めた処理方法に則って正しく処理がされていた。証憑等の保存についても適切に保管されていた。不正等を未然に防ぐチェック体制が評価できる。</p>	

項目	評価項目	指定管理者自己評価		
		評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価	
運営事業等に関する項目	8	<p>(利用者数)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者数増加に向けた工夫がされている。</li> </ul> <p>【参考値】</p> <p>A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体見学、講座参加者への電話でのフォローアップ、各種メディアを活用した広報活動、貸室利用者とのコミュニケーションなどの工夫で、利用者増加や再利用へつなげている。</li> <li>● 利用者数増へ向け、地域への出前を継続している。地域のお祭りや公民館での講座、小学校や高校、商業施設、府民カレッジなど老若男女様々な年齢層のかかわる場所へ出向き、希望に沿った内容で啓発活動に努めている。3月の川西阪急での出前展示では5日間で1,058人を動員した。</li> <li>● 大規模催事の際は、能勢電鉄山下駅からの無料シャトルバス運行を継続し、利便性を高めている。</li> <li>● 人気講座の里山ヨガはさらに会場設営方法を工夫し、参加人数を増やした。研修室を使用できない際には、組合の協力のもと、管理棟スペースを活用するなど、可能な限りスペース確保に努めている。</li> <li>● 上記の工夫の結果、年間の総利用者数は、21,688人であった。</li> </ul>	C
	9	<p>(利用者満足度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者のアンケート等により、利用者の満足度を把握し、業務が実施されている。</li> </ul> <p>【参考値】</p> <p>A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講座、見学、催事後のアンケート（有効回答2,054名）において、概ね高い評価をいただいている。「とても良かった」と「良かった」を合わせた回答が、スタッフの対応については98.2%、内容については97.7%の満足度となった。</li> <li>● 着物リメイク講座のチュニック、木工教室の工具箱、レーザーリメイク講座のメガネ入れなど、利用者からのリクエストも反映した講座内容を展開するなど、日々利用者の満足度を高める工夫を継続している。</li> </ul>	A
	10	<p>(施設見学サポート業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校等団体見学や、一般見学者に対し、それぞれ見学者に応じた案内業務が実施されている。</li> <li>● 本施設の設置目的達成のための「ごみ減量及びリサイクルに関する情報発信」に取り組まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 1市3町の小学校を含めた各学校の団体見学を例年通り受け入れ、24校1,608名が来場された。各学校のご要望に合わせた提案と対応を継続している。川西市教育委員会が市立小学校の4年生担当教諭を対象に開催している「里山体験学習説明会」に出席し、ゆめほたるの「見学許可申請書」や、ワークショップメニューなどの資料を配布し業務効率化に向けて協力した。</li> <li>● 幼稚園、保育所、放課後デイサービスなどの団体見学時には、動画やスタンプラリーなど低年齢向けのコンテンツ等をご案内し、施設見学に加えて、楽しんでもらうことで、再来場へのきっかけとなるような対応に努めている。</li> <li>● Instagramやブログ、地域への出前、気候変動啓発パネル展示などでごみ減量やリサイクルに関する情報発信に努めた。6月に川西市役所、キセラ川西プラザ、7月と3月に川西阪急、3月に豊能町立図書館でパネル展示を行い、SDGsやごみ減量、リサイクルの情報発信を行った。3年目となる能勢町立能勢ささゆり学園との連携展示も継続している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 来館者数は年々増加傾向である。地域への出前講座、出前展示などの啓発活動やイベントの工夫が来館者数増加に起因している。各種メディアへの広報活動も効果が出ている。また、人気イベントの参加人数を増やすための会場設営等にも工夫がみられる。</li> <li>● 毎年人気の高い里山ヨガは、多くの人が参加できるよう管理棟スペースを活用するなど、開催場所を工夫している。</li> <li>● 利用者数増加に向けた工夫として、大型イベントでグラウンドを利活用するなど、さらなる検討を期待する。</li> </ul>	B	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和6年度はアフターコロナへ転換した翌年度であるが、来館者数の戻りが緩やかな傾向にある。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習的な内容だけでは、来館者にとっては退屈に感じてしまう。施設の目的や役割を学ぶ中で、楽しさが感じられるものであれば、自然とリピーターが増えていくのではないかと。今後は、施設の根幹となる学びの部分より面白く、親しみやすいものに工夫していくことが大切である。</li> <li>● ごみ処理施設であると同時に、豊かな里山環境に囲まれているという立地を活かし、生ごみを分解する微生物の働きや、身近な生き物たちの生態を伝える展示・体験を通じて、ごみと自然・生き物との関係を伝えることができるのではないかと。</li> <li>● 単にきれいな自然を見せるだけでなく、生物の死骸など、生命の循環や自然のリアルな一面も含めて、環境啓発の素材として活かしてはどうか。</li> <li>● 構成市町の人口や生徒数が縮減していくなかで、来館者数の設定などの検討も必要である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 茜染め体験やワークショップのコラボ開催などの新たな講座や、開催手法などで新規の受講者を呼び込む工夫に努力されている</li> <li>● 過去に見学者から、職員の声が聞こえにくい等の声があったため、施設見学が支障なく行えるよう、説明を簡素化し、一言一句聞き取れるよう対策を行っている。</li> <li>● 利用者アンケートについて、内容の更新はないが、今後環境意識の向上についての項目を追加することなど、一部見直しを検討され、回答結果を今後のイベントに反映できるよう取り組まれている。</li> <li>● 講座・教室の参加者からのリクエストを講座のテーマに反映する工夫を行うことで、より多くの利用者の満足度が高まる結果となっている。</li> </ul>	B	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利用者アンケートの実施において、回答者の年齢層や地域構成などの利用統計など十分な分析が行われておらず、事業の企画に反映できていない。</li> <li>● インバウンド向けに、施設の宣伝を積極的に行っていないかった。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● アンケートによる来館者の年齢層や地域構成の把握が不十分。今後は事業の企画に役立てるため、来館者の傾向を把握するためのデータ収集が必要である。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 例年通り小学校を含めた団体見学の受け入れを行い、各学校の要望に沿った見学を実施している。また幼稚園、保育所、放課後デイサービス事業所などからの低年齢層の団体見学に対しても、コンテンツ内容を柔軟に調整し、臨機応変に対応している。</li> <li>● 施設見学では、昨今のリチウムイオン電池の火災事案にかんがみ、スタッフが案内するための原稿を見直ししたり、学習ロビーに実物を展示したりするなどの取り組みをしている。また組合が、新たに始めたボトル to ボトル事業に関連してペットボトルのリサイクルについての理解を深めてもらうために事業者の協力のもと、見学通路に模型を設置するなど、展示物に工夫を凝らしている。</li> </ul>	A	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 構成市町の小学4年生については、川西市は授業として社会科と里山学習の授業があり、3町は社会科の学習として施設を利用している。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設見学の場が行動変容につながる契機になるようガイド内容を工夫すべきである。</li> <li>● 国崎だからこそ身近な生き物とごみの関係性を紐解き、自然循環や環境とのつながりを伝えていくといった常に新しい発想を加えていくことが大切である。</li> <li>● 環境教育では、幼児や園児を対象とした展示や説明についても検討することが大切であり、こうした取り組みは、子どもと一緒に来館する若い家族層への啓発にもつながると考えられる。</li> </ul>	

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	11	<p>(環境情報センター管理業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に関する書籍や各種資料、映像、ネットコンテンツ等を適宜収集し環境情報の提供が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境に関する各種書籍や資料を継続して収集している。令和6年度には、寄贈と購入合わせて252冊増え、蔵書冊数は計5,884冊となった。利用人数は1,472人だった。施設見学と書籍利用でリピート来館するご家族が増えている。</li> <li>● 令和6年度の環境読書感想文コンクールは全国各地から109点の応募があった。猪名川町立松尾台小学校の4年生がゆめほたる賞(地域賞)を受賞した。次世代が環境問題に関する本を選んで読み、自分の考えをまとめて伝えるために感想文を書く事は、環境問題を自分ごととしてとらえ、主体的にどう行動するかを考えるという機会となる。</li> </ul>	A
	12	<p>(講演会、講習会、研究会等開催業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ごみ問題や環境問題のほか、地域の自然や人々の暮らしに役に立つ講演会や講習会が実施されている。</li> <li>● 環境分野に関連する専門講師を招き、環境啓発事業が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 吉本芸人の大谷健太氏による「ネタとトークとSDGs」イベントを2回実施し、早口ことばを糸口として、SDGsにあまりなじみのない方にも関心を持っていただいた。8/4にはゆめほたる内で実施、9/27には能勢町立能勢ささゆり学園で実施した。8月の講演会に先立ち5月から企画展をスタートし、催事や団体見学などが多い時期に、多くの人の目に触れ、宣伝効果を高める工夫をした。</li> <li>● 7/31に敷地内里山林で「昆虫教室」を開催した。講師は糞虫や、シカなど大型野生動物の増加や人間の林地利用の変化が与える影響について調査研究していた専門家。シカによる食害についても解説した。終了後のアンケートで「シカが増えすぎている問題は考えさせられる」という記載があった。自然観察会から地域の環境について考えてもらうきっかけづくりとした。</li> <li>● 8月と12月に天体観望会を開催し地域の自然に触れる機会を提供し、人気講座となっている。8月は67名、12月は41名が参加した。8月実施時の多目的広場で使用するプロジェクターの電源として、組合の公用車リーフとパワームーバーを利用した。参加者にも「国崎クリーンセンターでは、ごみを燃やした時の熱を使って発電」「その電気で公用車の電気自動車を充電」「センター内で使う電気をすべてまかなった上で、売電している」「今回のイベントではプロジェクターを電気自動車のバッテリーで作動させ、できるだけ環境に負荷をかけない努力をしている」との説明をした。8月は星のソムリエ京都より4名、12月は猪名川天文台運営委員より4名を講師に招いた。</li> </ul>	A

<p style="text-align: center;">所管課評価</p> <p>指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等</p>	<p style="text-align: center;">評 価</p>	<p style="text-align: center;">評価協議会評価</p> <p style="text-align: center;">協議会内での質疑回答、備考等</p>	<p style="text-align: center;">評 価</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境関係や構成市町に関する書籍や資料また子ども向けの図書を多数所蔵し、利用者に提供することで、知識の普及に寄与している。</li> <li>● 利用者数や貸出冊数がさらに増えるよう、ホームページで宣伝等を行うなど、広報PRにも工夫されたい。</li> <li>● 環境読書感想文コンクールは参加者募集をネットで掲載したこともあり、前年度より参加者が増加した。また応募点数の増加につながるよう学校に参加を呼びかけ、チラシも配布する等努力されている。</li> </ul>	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の環境に関するテーマにふさわしい専門知識を持つ講師を適切に招いており、参加者が自然観察を通じて地域の環境課題に関心を持つきっかけとなるイベントを開催している。</li> <li>● 令和5年度は一般市民向けの講演会等は実施されなかったが、令和6年度は8月に人気タレントによる講演会を実施するなど、広く親しみやすい方法で工夫し環境啓発に取り組んでいる。</li> <li>● 人気イベントである天体観望会では環境に負荷をかけないために、焼却施設でゴミを焼却処理する過程で発電した電気の一部を融通する公用車をイベント機材用の供給電源として使用する工夫がされた。</li> <li>● 予定していた一部のイベントについて、日程及び参加者との調整がとれず、実施できなかったものがあった。今後は、事業の企画立案段階から、十分な連携調整のもと、事業運営に負担が伴うことなく事業の計画的な実施が図れるよう、見極め対応されたい。</li> </ul>	B		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	13	<p>(リサイクル工房活用業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● リユース・リサイクルについて体験型工房を活用した講習会が実施されている。</li> <li>● 日常生活に役立つノウハウで習得できる講習会が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル工房（修理工房、制作工房、軽作業室）を活用し、リサイクルやリユースの体験講座を実施している。里山林にある日本茜を使った茜染め体験は、里山の利活用促進を目的のひとつとして、里山林と制作工房を活用した。日本茜による染色の希少性を知っている方が多く、当施設里山林の新たな価値を発見することができた。また、参加者間で羊毛を使った小物作り講座を自主的に実施することとなり、新たな貸室利用へとつながった。</li> <li>● 修理工房では里山木工教室や里山クラブ木工班などの活動を実施している。敷地内から伐採された間伐材や災害による倒木などを有効活用し、参加者に植木鉢台やトイレトーパーボックスなどの木製品を製作してもらっている。</li> </ul>	A
	14	<p>(屋外及び屋内を活用したイベントの開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ファミリー層等多世代に向けた環境啓発につながるイベントが実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フリーマーケットを4回実施し、リユース活動の場を提供している。5月ガレージマーケットは出店17ブース、来場者397人、9月の館内フリーマーケットは出店58ブース、来場者749人、11月ガレージマーケットは出店22ブース、来場者414人、3月の館内フリーマーケットは出店61ブース、来場者803人だった。</li> <li>● 9月と3月の館内フリーマーケットでは、JFEのご協力をいただいた家具を多数取り揃えた「リユース家具抽選会」を開き、集客とリユース啓発に力を注いでいる。</li> </ul>	A
	15	<p>(屋外観察会開催業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山を中心とした四季折々の自然を体感できるイベントが実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 5月の野鳥観察会、6月のヒメボタル観察会はゆめほたる里山クラブメンバーの協力と地域講師を招いて実施した。夏の天体観望会はペルセウス座流星群を、冬の天体観望会は土星をメインに観望できるように日程を組んだ。こうしたイベントは、敷地内里山林および多目的広場を会場に開催したもので、参加者に野外の自然を体感していただけた。</li> <li>● 野鳥観察会では「自然学習ゾーン」「エドヒガン南の森」「エドヒガン北の森」と広範囲にわたって散策した。野鳥観察と共に、里山で高密度に生息するシカのもたらす問題とボランティアによる保全活動の大切さについても知っていただいた。パードコール作りの材として、里山保全作業で発生した材の中から“リョウブ”を利用した。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクル工房を活用し、リユース・リサイクル体験講座を実施。日本茜を使った茜染め体験では里山資源の新たな価値を発見できるとともに、施設内工房で里山資源を利用した体験が実施されている。また参加者の自主企画により羊毛を使用した小物講座が生まれ、工房の活用が図られている。</li> <li>● 敷地内の里山から伐採された間伐材や災害による倒木などを有効活用し、木工で日常生活品を制作する講習会が実施されている。</li> <li>● つまみ細工及びレザーリメイク講座は、人気講座で参加者が多く、家庭にある古布から花などの飾り物を作る体験や、不要になった革製品を再利用し、バッグや小物などにリメイクする体験を通じて、参加者のリサイクルの意識の向上に大きく貢献している。</li> </ul>	A		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● フリーマーケットの新規参加者を増やすために、ガレージマーケット方式にイベント形式を切り替えるなど、参加者数を増やす取り組みがされている。</li> <li>● フリーマーケットは様々な場所で開催されているが、啓発施設の特色を生かし、出品物のリユースの促進に繋がることを今後は期待したい。</li> </ul>	B		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日常では体験できないイベントが里山を拠点に実施されている。</li> <li>● 屋外観察会は毎年多数の参加者を集める人気イベントで繰り返し参加される方が多いが、アンケートでも満足感が高く、マンネリを感じる意見はほぼない。</li> </ul>	A		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 ● 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	16	(ボランティア運営業務) ● ボランティアの育成を行い、各種グループとの連携を図りながら事業が運営されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1期～第4期の里山保全技術者養成講座修了生がゆめほたる里山クラブ員として敷地内の里山保全活動を行っている。ハード面の森林の保全整備と、ソフト面の環境学習の場の提供をあわせて行っている。ゆめほたる里山クラブのメンバーがキーマンとなり、地域内の里山保全団体が集まる情報交流の場が新たに誕生した。</li> <li>● 環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。カホンクラブと地域の福祉施設や自治会の橋渡しをしている。日頃のカホン練習の成果を施設や団体の催事で発表することができた。</li> <li>● 次世代に施設見学だけでなく、将来的に環境関係への進路を導く可能性を広げようと実施しているプログラミング教室（環境科学技術クラブ）の成果発表会を実施し、広報などにより一般住民にも知っていただき、次の講座参加へとつながっている。</li> </ul>	A
	17	(広報活動) ● 広報誌「森の泉」やホームページ等各種媒体を使用して、施設の宣伝や環境啓発が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民のみなさまの目に留まりやすいよう「森の泉」の表紙写真を工夫するなどした。とりわけ、プラスチック製容器包装レーンの手選別作業の写真を掲載した104号（12月1日発行）に対しては「分別の大切さを実感した」など、大きな反響があった。ブログ、メールニュース、インスタグラムなどの各種媒体での情報提供にも努め、200件以上発信した</li> <li>● 令和6年度は国崎クリーンセンターと啓発施設ゆめほたるの開館15周年にあたり、環境マンガ家の本田亮さんに依頼して記念のイラスト・ロゴを作成。記念事業をはじめ通年で活用した。また、広報の相乗効果を狙って、川西市制70周年の記念ロゴも併せて活用した。</li> <li>● チラシやポスター約15,000部を1市3町の行政機関、学校、施設などに年4回配布。配布のたびに送付先リストを更新し、無駄を省き効果的な広報に努めた</li> <li>● メディア向けに積極的なプレスリリース発信を行った。4件（「ボトル to ボトル」を含めて5件）のプレスリリースを発信。「読売新聞」「毎日新聞」、地域情報紙「暮らしの新聞」などに記事が掲載された。</li> </ul>	A
	18	(貸室の利用状況) ● 多目的広場や管理棟内等貸室の活用方法及び貸出方法について、稼働率を高めるための取組みが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多目的広場については日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行い、利用者が満足して使っていただけ環境づくりに努めている。</li> <li>● 貸室への問い合わせに丁寧に対応し、9月兵庫県立大学、11月NPO法人ひょうご森の倶楽部、11月環境系団体、2月地域住民などの施設利用へとつながっている。来館者の見学ガイドを行う際には、各工房だけでなく、視聴覚室や講座室の説明も行い、お客さまの事情に応じて貸し出しをしていることもご案内している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評 価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評 価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 里山ボランティアは約50人が所属し、前年度より増えている。月3回の定期活動には、1回に約15人が参加し、施設内の里山林の保全に尽力している。</li> <li>● エドヒガンの保全活動が環境保全功労者知事表彰、日本さくらの会から桜功労者表彰も受賞しており、今後の益々の活躍に期待したい。</li> <li>● 里山ボランティアの発案で茜染め体験を実施。川西地域での里山保全団体の交流会も実施し、各種グループとの連携を図り、協働に向けた取り組みに今後期待している。</li> </ul>	A	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設周辺の自然環境の良さを、地域の人やボランティアと連携し発掘している。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広報誌がタブロイドからA4版になり2年目を迎え、表紙や特集記事にも工夫を施している。加えて令和6年6月の102号発行分から、読者アンケート意見を基に、分別に困っているごみについてのコーナーの設置や、その時の情勢を考慮した広報誌面作りに努めている。</li> <li>● 従来ホームページに掲載していた危険ごみの啓発動画をブラッシュアップするとともに、掲載場所を目につきやすいところ（カラーセルパナー内）に変更し、リチウムイオンバッテリーへの啓発広報に工夫に努めている。</li> <li>● チラシやポスターについては、1市3町の担当課や公民館、図書館をはじめ計100か所に配布及び送付を行い、積極的に周知に努められている。</li> <li>● 近畿エリアを範囲とする新聞に施設の活動や催し物をプレスリリースするなど、メディアを積極的に活用している。</li> <li>● 昨年から課題である広報誌の紙面編集工程の進め方への対応については、工程の見直しはあったものの改善の方向には至っておらず、まずは校正レベルでケアレスミスを防ぎ、より一層のチェック体制の改善を求める。</li> </ul>	B	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度の評価への改善対応として紙面編集の進め方では、改善への取り組みの効果の説明がなく、指定管理者としての役割においてやや受け身な対応が見受けられた。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 引き続き組合からの改善指導が必要と認識する。</li> <li>● 12月の広報誌のごみの分別に関わる表紙の写真及び記事は、読者目線からするとかなりのインパクトがあり、反響が大きかった。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 貸室利用者に施設の他の貸室についても案内し、貸室利用の向上に努めている。</li> <li>● 他の公共施設の案内でゆめほたるの貸室の利用に至った経験を活かし、近隣の公共施設との連携を深めることで、貸室の利用向上に努められたい。</li> <li>● 工房での講座の参加者間で講座を自主的に実施するなど、貸室利用につながっている。</li> </ul>	B		

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	19	<p>(出前講座・出前展示の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の各種団体や学校等でニーズに応じた出前講座が実施されている。</li> <li>●地域の各種施設で展示啓発が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の各種団体のご希望に沿った出前授業等を実施している。黒川里山センター、川西明峰高校、多田グリーンハイツ自治会、川西市清和台公民館などへ出向いて啓発活動を行った。</li> <li>●川西市役所、キセラ川西プラザ、豊能町立図書館、川西阪急などで展示啓発を実施した。多くの方々の目に触れることで啓発につながっている。</li> </ul>	A
	20	<p>(地域活性化、地域貢献)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活性化や地域貢献に寄与するイベントが実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●フードライブ事業で令和6年度は5件42.7kgを受け入れ、地域のこども食堂へ寄附した。</li> <li>●一庫ダムと連携し、8月に一庫唐松公園のクリーンアップを、9月に流木アート作品の展示を行った。</li> <li>●兵庫県立川西明峰高校の「明峰の学び」の講師として継続参加している。明峰の学びは地域や大学の様々な分野から招かれた講師が授業をする「総合的な探求の時間」の活動の一環。ごみ分別体験、抹茶のお点前、ドローンの操作などを組み込み、体験型プログラムにより、楽しみながら記憶に残る内容になるよう毎年工夫している。</li> <li>●「多田グリーンハイツサマーカーニバル」や「能勢みんなのつどい」、豊能町祥雲館「森のフェスティバル」などの地域コミュニティや地域福祉施設の祭りへの参加や環境啓発パネルの展示などによる地域活性化への協力を行った。</li> </ul>	A
	21	<p>(里山林等維持管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●敷地内の里山を含む緑地や植栽の維持管理が適切に行われている。</li> <li>●里山を活用した事業が実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●継続して、国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学識経験者や森林整備専門家などから国崎の里山林保全についてのアドバイスを得ながら、ゆめほたる里山クラブも交えて、維持管理を行っている。</li> <li>●天然記念物のお花見(雨天中止)、野鳥観察会、寝ころびヨガ、新割り体験、昆虫観察会、茜染め体験、森遊びなど季節ごとに里山を活用したイベントを実施している。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな施設での出前講座につながったケースもあり、地域の希望に沿った啓発活動及び展示啓発の充実が図られている。</li> <li>● 大型商業施設での展示ではリサイクルに焦点を当てた催しを行い、普段施設を訪れない方も含め、多くの方が環境について考える良い機会につながっている。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出前講座・出前展示は、地域におけるごみの分別などの環境行動のきっかけとなっているので、今後も継続して取り組んでほしい。</li> <li>● 他施設との連携を通じた広報活動の強化、地域外への情報発信を計画的に行うことで、施設の認知拡大と来訪促進を図るべきである。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昨年度に引き続き「明峰の学び」に講師として参加しており、年度ごとに体験型プログラムを変更し、楽しく学び記憶に残るよう工夫した内容で実施されている。</li> <li>● 周辺施設との連携では、昨年オープンした川西市立黒川里山センターにおいて、ゆめほたる樹木医が直接現地の草花の案内役を受けるほか、一庫ダムとの連携も行われており、今後も継続して取り組みが生まれることを期待する。</li> <li>● フードドライブ事業は、食品ロス対策の一環で実施しており、食品の持ち込み者のお住いの子ども食堂へ寄付し、支援につなげている。</li> <li>● アウトリーチによる環境啓発の一環として地域の催しに継続して参加しており、これが地域への貢献の一助となっている。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 黒川里山センターや一庫ダムとの連携を進める中で、情報共有や関係づくりができています。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 敷地内里山林維持管理事業として、毎月危険木対策や防鹿柵の点検を実施している。また、保全活動を通じて森林整備の知識を研鑽している。</li> <li>● 敷地内ビオトープの管理状況は、年数回草刈を実施し、周辺の案内看板を定期的に更新している。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の啓発施設にはない里山という豊かな自然環境を広く有する特徴を活かし、ごみの分解や循環の仕組みを伝えるような、独自の教材づくりや展示の工夫が進められることを期待する。</li> </ul>	

項目		評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	22	<p>(市町・各種団体との連携、協働、支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市町・各種団体と連携・協働しながら環境施策等への支援が実施されている。</li> <li>●次世代育成の観点から、施設見学や環境学習におけるさらなる啓発効果を高めるための取り組みが実施されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●川西市教育委員会が各小学校の担当者を対象に3月に開催している説明会へも参加し、スムーズな団体見学対応が出来るようにしている。また、能勢町の教育委員会と連携して、講演会を実施したほか、子どもたちのゆめほたる見学後の成果物を館内と川西阪急に展示した。</li> <li>●川西市環境政策課と環境月間展示や環境フェスタ参加など連携・協働している。環境フェスタではゆめほたる里山クラブとゆめほたるの2ブース出展し、地域の方に生物多様性ビンゴゲームや分別ゲーム体験などで楽しんでいただき、里山の魅力発信とごみ分別啓発を行った。</li> <li>●9月に猪名川町の教育委員会と連携して、トライやるウィークの中学生を受け入れ、環境学習の体験の場を提供した。</li> <li>●近隣団体のイベント等で、スケジュールが合わない場合などは、ゆめほたる里山クラブのメンバーやゆめほたる講師を紹介するなどの協力をしている。</li> </ul>	A

<p style="text-align: center;">所管課評価</p> <p style="text-align: center;">指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項等</p>	<p style="text-align: center;">評価</p>	<p style="text-align: center;">評価協議会評価</p> <p style="text-align: center;">協議会内での質疑回答、備考等</p>	<p style="text-align: center;">評価</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 構成市町の教育委員会とは、環境学習の啓発施設として団体による施設見学や、猪名川町トライやるウィークの中学生を受け入れなどで連携している。</li> <li>● 出前授業に人気タレントを起用したり、ボトル to ボトルの展示を行ったりするなど、楽しみながら学べる啓発活動に力を入れている。</li> <li>● 環境部局では川西市の他、新たに豊能町からの要請を受け、大阪府民カレッジ豊能校で「ごみの分別と分別体験」をテーマとした出前授業を行った。</li> <li>● 6月のジャズとほたるの夕べの開催に併せ、北摂里山博物館運営協議会（事務局・阪神北県民局）とジョイント企画を実施し、連携を深めている。</li> <li>● 新たに大阪府立支援学校が里山体験学習に訪れたり、兵庫県立大学が台場クヌギを見学し、樹木の調査方法などを学んだりするなど、学習施設としての役割を担った。</li> <li>● 今後、構成市町の環境・美化関係の所管課及び教育委員会以外の分野（防災関係・消防など）との幅広い連携を期待する。</li> </ul>	A	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設の掲げる目的について、ごみ・環境・自然・生き物など、多くのテーマがあるがそれぞれの事業を実施するうえで「何を伝える施設か」の根本を意識してテーマの見直しをしていく。</li> <li>● 組合では職員の異動により方針が変わることもあるが、指定管理者は長く関わることで、これまでの取組や流れをよく理解している。今後も双方が丁寧に話し合いながら、これまでの方針を大切にし、ぶれない運営が続いていくことを期待する。</li> </ul>	

項目	評価項目	指定管理者自己評価 評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	23 (新規事業等) ● 事業を常に見直し、業務改善に取組み、新たな事業を展開している。  ● 特に力を入れて取り組んだ事業。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リユース促進に効果的なフリーマーケットは、地域住民からの問い合わせも多く、特に力を入れて準備している。9月には豊中・伊丹環境政策フォーラムによる「食器リユース市」、11月はアサヒ飲料による「森のタンブラーお絵かき教室」、3月は明治安田生命による「みんなの健活プロジェクト・血管年齢測定」等の新メニューを組み込み、来場者にも出店者にも新鮮味を感じてもらえるように努めた。</li> <li>● 多目的広場でのフリマ開催時に荷物の搬出入軽減へのリクエストや暑さ対策への懸念が年々増えていたこともあり、5月と11月は駐車場を利用したガレージマーケットを実施した。規約、バス運行、誘導、広場の活用など全体的な見直しを行い、関係各所にも協力いただき、安全な運営に努めた。9月と3月のフリーマーケットは館内で開催し、リユース家具抽選会では109点の家具をお持ち帰りいただきごみ減量につながった。</li> <li>● 15周年記念事業として、吉本芸人・大谷健太さんの早口ことばでSDGsを学んでもらう企画を実施。5月から9月の4か月に渡って展示、講演会、出前授業と展開した。川西市役所、能勢町教育委員会、アサヒ飲料グループ、川西阪急などにもご協力いただき、SDGsを分かりやすく、楽しく学べるように努めた。</li> <li>● 地域の小学4年生の団体見学受け入れについては、引き続き力を入れており、令和6年度はリチウムイオン電池の処分方法や食品ロスについての説明を丁寧に行った。</li> <li>● 2月の団体見学では施設見学後にPETボトルの分別やボトル to ボトルについての学習会を実施した。9月の大阪府民カレッジ豊能校への出前講座では、ごみ分別とふるしきの使い方に関しての説明を行った。アンケートでは、「ごみの分別で分からないところが分かった。」「風呂敷包み、とても楽しく役に立ちました。大いに活用したいと思います。」などの感想があった。</li> </ul>	A

所管課評価 指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	評価協議会評価 協議会内での質疑回答、備考等	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>● フリーマーケットについては大きく開催方法を見直しており、令和6年度は年4回の内2回をガレージマーケットとして実施した。暑さや雨天を考慮し、館内でも開催するなど、参加者に配慮したイベントとしている。</li> <li>● ヒメポタルの一般向けの観察会は、令和2年のコロナ以降行っていなかったが、令和6年度は再開し、定員を超えての参加であった。</li> <li>● 組合が令和6年から事業化した「ボトル to ボトル事業」の啓発では、9月の能勢町立ささゆり学園での出前授業、11月のフリーマーケットでの森のタンブラー絵付け体験、2月の川西市東谷コミュニティ協議会を対象とした研修会などを行い、啓発施設の役割を果たした。</li> <li>● 15周年記念事業として、「国崎クリーンセンターあゆみ展」を実施した。過去に施設を訪れていた来館者や初めて訪れる来館者にもセンターの歴史を知ってもらう良い機会となった。</li> <li>● 初めて近隣の複数の環境学習施設と「企画交換（かえっこ）」の取組が実現し、相互交流の新たな展開を見せる第一幕となった。</li> <li>● 充電式リチウムイオン電池の正しい処分方法について、施設見学のみならず出前授業や出前講座、出前展示など様々な機会を利用し啓発を行った。</li> </ul>	A	<p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設の掲げる目的について、ごみ・環境・自然・生き物など、多くのテーマがあるが、それぞれの事業を実施するうえで「何を伝える施設か」の根本を意識してテーマの見直しをしていく。</li> <li>● 周辺学習施設との連携も積極的に広げていき、異なるテーマやプログラムの交換、スタッフの知識のスキルアップの糧とするべきである。</li> </ul> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各プログラムが目指すべき効果設定が十分でなく、「ごみ」「環境」「自然」「生き物」などをうまく関連づけ、利用者をもっと引き寄せるアイデアや工夫が求められる。</li> </ul>	

## 総合評価

# A

指定管理者は、コロナ禍以降、積極的にイベント等の実施に取り組み、利用者数も順調に回復している。令和6年度は設立15周年を迎え、来館者累計が35万人を超えるなど、施設の使命に応え、着実に成果を上げている。評価結果を受けて事業運営にも前向きに取り組んでおり、その姿勢は高く評価できる。

### «総括評価»

- 「管理体制等」については、スタッフのワークライフバランスに十分な配慮がなされており、安全管理についても、マニュアルに沿った適切な対応が行われている。また、利用者からの意見や要望にも柔軟に対応しており、概ね良好な体制が維持されている。
- 「経営状況等」については、概ね予算通りに執行されており、支出についても指定管理者が定めた処理方法に則って適切に行われている。証憑類も適切に保管されており、不正の未然防止に向けたチェック体制も整っている。
- 「運営事業等」については、施設の目的に沿った啓発・教育活動や地域連携、イベントの充実に積極的に取り組んでおり、リピーターの増加や新規利用者の獲得も評価される。一方で、来訪者データの収集・分析をすることで、事業の目的を再確認し、必要な見直しをすることが今後の課題である。

### «総合評価»

以上の3項目については全て「A」評価としており、評価指標の基準では、総合評価は「S」評価となるが、各個別項目において今後に期待する項目やさらなる改善を要する項目が、見られることから、最終的な総合評価としては「A」評価とする。

<p><b>付帯意見</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 啓発施設としてさまざまなイベントや事業が実施されているが、それらの継続に力を注ぐあまり、施設としての本来の目的や方向性を見失わないよう、今一度、施設が存在する理由や役割に立ち戻り、現在行っているイベントや事業の必要性や内容について精査すること。</li>   <li>● 来館者に実施するアンケートについては、来館者のニーズをよりの確に捉えられる内容とし、得られたデータを各事業のターゲット設定や評価に活用するとともに、利用者のさらなる増加に向けた工夫や取り組みにもつなげていくこと。</li>   <li>● 広報誌編集については啓発施設の知識や技術を十分に生かした紙面づくりをすること。</li> </ul>
--------------------	---

<p><b>付帯意見 への対応</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 啓発施設指定管理者の募集要項および仕様書に記載された業務、ならびに「国崎クリーンセンターの設置及び管理に関する条例」に基づいた目的や方向性に沿った必要性の高いイベントや事業を行っているところです。条例等で示されている当施設の役割に沿い、ごみの回収ならびに持ち込みで生じている諸課題（リチウムイオン電池の混入による発火事案など）と対策（「可燃ごみと一緒に廃棄しない」など）を利用者に積極的に周知し、施設の適正稼働とごみ減量リサイクルの推進に向け、事業を通じて啓発に努めます。令和8年度以降の業務計画の策定にあたって、事業の内容や必要性を精査し、業務計画に落とし込んでまいります。</li>   <li>● 来館者のアンケートについては、スタッフ全員が内容を読み込み、業務改善に活かしているところです。さらに幅広い内容の意見を収集するためにアンケートの設問の見直しに着手します。年度途中で設問や選択肢を変えると集計後のブレが生じるおそれがあるため、設問や実施方法などの見直しは令和7年度下期に行い、令和8年度から新しいアンケートの実施を目指します。得られた声を利用促進につながる企画や取り組みにつなげてまいります。</li>   <li>● 広報誌の編集については、本社とも内容を精査し、類似施設の知見も生かした誌面づくりを目指します。台割作成からデザイナー・コピーライターの選定などをはじめとした本社のバックアップも受けながら、スケジュール管理や紙面レイアウトのパターン化などの対策によって編集作業の工数を減らすことを検討します。併せて校正の精度のアップを目指します。</li> </ul>
-----------------------------	---